No.３

No.２の記事では、ロジャーという補聴システムについての情報をお伝えしました。今回は、帯広盲学校がコラムの担当になりましたので３歳児健康診査で新たに導入が進んでいる屈折検査についての情報をお届けします。

今までの３歳児健診の視力検査は、家庭に事前に配られた鳥、魚、ちょう、花の絵指標を使って各家庭で視力を調べ、問題があれば健診会場で保健師や医師らに伝え、眼科で精密検査を受けるという方法のみで行ってきました。この問題点として、子どもが自分の目の状態を正確に説明できないケースも多くあり令和３年 11 月に日本眼科学会などが 「現状の絵指標による視検査では、弱視を見逃すケースが多い、その現状を改善するため屈折検査の実施が必須」という要望が出され、これが契機となり、十勝管内でも９割近くの市町村で３歳児健診に屈折検査が導入されることになりました。

スポットビジョンスクリーナー

屈折検査を行う機器は「スポットビジョンスクリーナー」です。左の写真が実際に屈折検査を行っている様子です。目には見えない赤外光を目の奥の網膜と呼ばれる部位に当て、反射してくる光から目の屈折力を測定します。その屈折力の強弱から「近視・遠視・乱視・斜視」といった屈折異常を発見することができます。

帯広盲学校に、スポットビジョンスクリーナーが入ったのは、令和３年 11 月になります。導入前から、屈折検査の活用の仕方、検査結果の解釈について職員間で何度も研修会を重ねてきたこともあり、各自治体が３歳児健診に屈折検査を導入する際に、本校職員が講師となって研修会を開きスムーズに導入できるようにサポートをしてきました。このコラムをお読みになっている方でお子様の見え方、見えにくさについてご心配なさっている際には遠慮なく帯広盲学校の教育相談にいらしてください。　　（文責　帯広盲学校　コーディネーター）